

# はまなす



令和5年6月1日

四倉高校図書館だより第2号

第1学期の中間考査が終わりました。1年生の皆さんには高校生となって初めての考査ですね。入試の時に感じた緊張感を思い出した人もいたかもしれません。また、1年2年と考査を受け、慣れてきた2、3年生は、1年間で5回しか受けることのできない考査の1つが終わりました。考査を受ける回数が増えるにつれ、高校生として過ごせる時間は少なくなります。こんなふうに考えると、高校生活の1日1日がとても大事な時間に思いませんか？人生は順風満帆なときばかりではありません。高校生活を振り返ったときに、「あの頃は頑張ったな」という経験は、自分を励まし何かを成すときの原動力になります。次の考査でも授業の成果がより満足できる結果につながりますように。

先月、広島において主要7カ国首脳会議(広島サミット)が開催されました。広島は人類史初の原爆投下都市です。平和の大切さや戦争の愚かさ、命について改めて考えるきっかけとして2冊紹介します。

『橋の上で』

湯本香樹実/文 酒井駒子/絵 出版社/河出書房新社

この本は絵本に分類されます。絵本というと、子どもの読み物と認識する人が多いように思いますが、年齢を問わずに薦められる本が絵本です。この本は「いのち」について描かれています。橋の上で思いつめた表情の少年は、声をかけられたおじさんから不思議なしぐさを教えてもらいます。時間をおいて再読するとまた違う読後感が味わえる1冊です。\*図書館にある『くまとやまねこ』という絵本もこの二人の作品です。

『戦争で死んだ兵士のこと』

小泉吉宏/作

出版社/メディアファクトリー

今はのどかな森の中の湖のほとり、一人の兵士が死んでいる。から始まるこの物語は、死んだ兵士の身に起こったことが時間を遡って描いてある絵本です。現在も紛争中の国があり、他国からの侵攻に対抗する兵士や市民の姿、そして死者数が報道されています。この絵本を手にとると、死者の一人一人にもそれぞれに人生があり、数字では表せない命の重さに改めて気づかされます。

今年度も新しい本を購入する時期になりました。皆さんのクラスにリクエスト用紙を配布します。  
気になる本や図書館に入れて欲しい本を記入してください。

6月13日(火)締め切り



\*図書委員は6月14日(水)の放課後委員会活動の時に持参してください。



本を好きになるきっかけは些細なことかもしれません。友達に面白いからと薦められたとか、失恋の辛さを癒そうと選んだ本にすっかりハマってしまったなど。7月にはビブリオバトルがあります。四高生はどんな本を読み、自分はどんな本に興味を持つのか。以前読んだ同じ本が紹介されることもあるかもしれません。本が縁で友達の輪が広がったなら、それはビブリオバトルからのプレゼントです。